



福祉公社は、武蔵野市が全国に先駆け、昭和 55 年に設立した在宅サービス提供機関です。
誌名「羅針盤」はご利用者を包括的に支援し、その人生と共に歩むサービスの基本姿勢を表したものです。

夏暁に山々の稜線が輝く七月です。

山開きは、諸国の山に登る第 1 日です。

鎮座する山の神により日はまちまちですが、
富士山の山開きの 1 日は著名で、ご来光を
仰ぐニュースが毎年報道されます。

梅雨明け直後の猛暑も例年のこと、熱中症にお気を付けの上、
皆様には、どうぞお健やかに過ごしてください。



<紙面から>

平成 28 年度 事業報告 決算報告 1 ページ

理事・監事 退任のご挨拶 ……2 ページ

みんなの音楽会 北町センター家族懇談会

ホームページ リニューアル ……3 ページ

お知らせ リレーコラム ……4 ページ

平成 28 年度 事業報告 決算報告 理事会 評議員会

6 月 1 日の理事会、16 日の評議員会にて平成 28 年度の事業及び決算を報告し承認を得ました。

28 年度の重点事業の執行状況及び財政状況は、以下のとおりです。

介護人材の育成・確保については、総合事業の担い手である市認定の「いきいき支え合いヘルパー」養成を市から継続して受託し、介護職員初任者研修とともに人材の確保・育成を進めました。

有償在宅福祉サービスと権利擁護事業は、昨年度末で経過措置が終了しました。

継続して公社サービスをご希望のご利用者全員が、つながりサポート事業、地域福祉権利擁護事業、成年後見事業へ移行されました。引き続き、公社の理念である全人的利用者支援に努めてまいります。

名誉市民・山崎倫子先生から市に遺贈された建物について市の活用方針がまとめられました。



評議員会 (評議員 6 名)

1 階は北町高齢者センターデイサービスの拡大・充実、2 階は子育てひろば事業の実施、さらに故山崎浩・倫子夫妻のメモリアルルームを設置することとなりました。改修工事に向け、市と協議を続けると同時に、子育てひろば事業運営団体公募の準備を進めました。

福祉公社と市民社会福祉協議会の組織のあり方検討委員会は、29 年 2 月に報告書を取りまとめ、市民社会福祉協議会との統合は「当面見合わせるべき」との結論に至りました。今後は「市民共助による福祉の推進」に向けて、連携を推進します。

財政状況については、居宅介護支援事業において、新たに主任ケアマネジャーを配置する等、体制強化に伴う人件費増はあったものの、事業活動支出は前年度を下回り、適切な予算執行に努めました。他方、指定管理委託料の精算により、事業収支は前年度に比較すると悪化しました。

その他の各事業についても、「住み慣れた所でいつまでも」と言う公社の理念に沿い、まちぐるみの支え合いの推進に向け、サービス提供いたしました。

今年度も、誠実に各事業に精励し、市民福祉の向上に努めます。



理事会 (理事 6 名及び監事 2 名)

理事・監事 退任

この度、安達理事、五十嵐監事が退任なさいました。

安達理事は平成6年から23年間理事を、五十嵐監事は平成21年より8年間監事を務められました。

長きに亘って福祉公社の発展にご尽力いただき、誠にありがとうございました。

退任のご挨拶

大変長い間お世話になり、ありがとうございました。

私が理事に就任したとき、社会事業大学の学長であった仲村優一先生がいらっしゃって、先生を中心に、少子高齢化がますます進行する21世紀にむけて、どのような社会福祉の枠組みを用意すべきか、かなり突っ込んだ議論をしたことがあります。

その時、一つのモデルになるのではないかと意見の一致を見たのが、既に武蔵野市と当福祉公社が連携して実施していた有償福祉サービスでした。当時、この制度は富裕層対策ではないかという批判がありました。しかし、国の生活保護制度は、補足性の原理が明確にされており、労働能力のある者は、その能力の限りをつくし、資産のある者は、先ずはその資産を活用して、生計の維持に努めなさいということになっています。従って、資産、つまり自宅があって収入がない人は生活ができないという現実と直面します。また制度以前の問題として、長年住み慣れた我が家を処分してまで保護申請をする人は稀で、危険性の高い他の方法を選ぶ人がほとんどでしょう。こういった国の制度と住民生活のギャップを埋めるのが自治体の役割であり、有償福祉サービスはその役割を十分果た

福祉公社に期待すること

近年、福祉・介護の世界は、社会環境・市民意識・制度の変化にあってその有り様は、過去に例を見ない速さで大きく変わってきています。

その流れの中で地域福祉の担い手である公社は、市民の一人ひとりの声を聴きそして寄り添っていくことの中から、運営・サービスの内容等「変えていくべきは、変えていく」、その努力を現在から未来へと続けていくことに期待をします。

同時にそのプロセスにあって福祉公社は、創立時に掲げた理念を羅針盤とし「変えるべきでない、変えてはならない」事柄を見据えていくことも求められていると思います。その視点こそが、市民が期待する公社としての存在価値を実践において内外に示していく鍵となることと思います。武蔵野の地にあって、「新しくも頑固であり続ける」公社の働きを期待しています。



五十嵐監事（中央左）、安達理事（中央右）

安達 高之

したといえます。そのような中で、2000年に、あれよあれよという間に見切り発車の形でスタートしたのが介護保険制度です。

我が国の社会福祉制度は大きな転換期を迎えました。介護保険制度は、見切り発車の影響がいまだに続いており、2005年の大改正の後も毎年のように手が加えられています。介護保険制度が導入される時、それまで無認可のミニデイサービスを利用していた人で、介護保険制度の適用外となる人がでることを想定して創設された、武蔵野市のテンミリオンハウス事業も制度の隙間を埋める施策だと言えらると思います。全国一律の介護保険制度と大都市である武蔵野市にお住まいの高齢者の個々の生活実態とには必ずギャップや隙間があるはずで、このギャップや隙間は現場でしか分かりません。福祉公社は、そのギャップや隙間を埋める方策はないか、仕組みとしての手だてが無理なら、その生活者にとってベターな方途は何かを常に意識し、問題提起しながら事業展開を図ることが望まれます。

福祉公社の益々のご活躍と市民の皆様により一層愛され頼りにされる福祉公社へ邁進されることを心から願い、退任の挨拶に代えさせていただきます。長い間本当に有難うございました。

五十嵐 利光



高齢者総合センターデイサービス みんなの音楽会

5月31日、高齢者総合センター5階ホールで「みんなの音楽会」が開催されました。

デイサービスご利用者が社会活動センターバイオリン講座有志による演奏を鑑賞し、受講者と交流しました。当日は関係者や一般のお客様106名がご参加でした。

演奏者の中にデイサービス利用者のYさんがいます。Yさんのデイサービス利用のきっかけは12年前の事故です。



「私にとって長い道のりでした。12年前、不注意から転倒し頸椎を損傷、全身麻痺になり寝たきり生活が4か月続きました。車椅子、歩行器、そしてカートで歩けるように訓練し、7か月後にやっと退院できたのです。当時、バイオリン講座の受講者であった私は、痺れがひどくてバイオリンが全く弾けない自分をひどく悲しく思いました。しかし、やっぱりバイオリンが弾きたい！。そこからが私の挑戦です。



歩かなくては！手も自由に動かさなくては！。しかし動かせば針を刺されるような痛みが走ります。でもやらなければ・・・。

そして12年の歳月が経ちました。今年、再び講座に参加するまでになり、新たなものが見えてきた感じです。次のコンサートを今から心ひそかに待っている次第です」。



デイサービスの職員はそんなYさんの前向きな姿勢に感銘を受け、その背後から少しのお手伝いと大きな応援を送り続けたいと思っています。



北町高齢者センター

家族懇談会・試食会

5月31日、ご利用者、ご家族への支援プログラムの一環として家族懇談会・試食会を開催しました。



ご参加者は5名と少人数でしたが、活発に意見交換でき、良い時間を持てました。

初参加のご家族が介護の悩みや不安を話され、それに対して同様の経験をした先輩方が、助言やアドバイスをしてくださいました。

長く介護を担っているご家族から最近介護を始めた方、対象者は親や配偶者等、背景はそれぞれ異なりますが、介護を同じくするお仲間からの経験談は参考になることが多々あり、ピアカウンセリング効果も大でした。

昼食は味もさることながら、栄養のバランスや野菜の切り方、食べやすさへの工夫などにご評価を頂きました。

これからもご家族と手をたずさえて、より良い個別サービスの充実に努めます。



ホームページ リニューアルのお知らせ

市民の皆様に、より良く福祉公社をご理解頂くために、また皆様の生活課題を迅速、的確に解決するサービス提供の充実を期して、7月1日よりホームページをリニューアルいたしました。

これからも継続して内容の充実を図ります。是非、ご高覧の上ご意見をお寄せください。

URL : <http://www.fukushikosha.jp/>

(URLに変更はありません)

燕の子育て

高齢者総合センターで6羽の子ツバメがすくすく育ち、元気に巣立ちました(6月14日撮影)。



会社からのお知らせ



老いじたく講座 ～成年後見制度について～

誰にでも訪れる老いに備え、元気なうちから準備して尊厳ある老後生活を築きましょう。

日時 7月27日(木) 13時30分から15時
場所 福祉公社 1階会議室



～エンディングノート講座～

日時 8月14日(月) 13時30分から15時
場所 福祉公社 1階会議室

問合せ 在宅サービス課 権利擁護センター
申込 ☎ 23-1165

納涼囲碁・将棋大会 参加者募集

日時 将棋 7月21日(金) 9:45～15:30
囲碁 7月28日(金) 9:45～15:30
会場 高齢者総合センター 参加費：無料
定員 将棋 40名・囲碁 90名
対象 市内在住の60歳以上の方。級位クラスの方も歓迎です。成績優秀者に賞品もあります。(初参加者は受賞対象外となります)
申込締切 将棋 7月14日(金)
囲碁 7月21日(金)
申込 高齢者総合センター1階
受付窓口へ直接又は ☎51-1975 へ



職員リレーコラム

第38回 「新人時代」

ホームヘルプセンター武蔵野 高橋 裕子

6月に入り町に行く人の中にきっと今年の新社会人なんだろうなと思われる姿を目にします。新人時代は誰でも心当たりはあると思いますが、私も本当に様々な失敗をしながら先輩たちに教わった経験があります。後ろの席の係長に尋ねる時に思わず「先生」と呼びかけて「先生はもういないよ」と苦笑いされた事もありました。同期の友達は上司に「日の丸頼むよ」と言われ、日の丸弁当かと思ったら、実はタクシーだったとか…。

娘の友人は、6月のボーナス時期に保険の獲得のセールスに行った先で、「いやー、僕は寸志だからなあ」と言われ「私もスンシなんです!」と答え「えっ?」と驚かれた。娘の友人は『死ぬ寸前』な位の意味かと思ったと…。

私は、笑われたり恥じ入ったりの新人時代をとうに過ぎたのに、未だに冷や汗の日々を送っています。

⇒ 次回は ホームヘルプセンター 佐子 万喜子

編集・発行 公益財団法人 武蔵野市福祉公社

次号は平成29年8月10日発行予定です



武蔵野市福祉公社・ホームヘルプセンター武蔵野

東京都武蔵野市吉祥寺北町1-9-1

バス停「武蔵野八幡宮前」下車

☎0422-23-1165 (総務課、在宅サービス課)

☎0422-23-2611 (ホームヘルプセンター武蔵野)

武蔵野市立高齢者総合センター

東京都武蔵野市緑町2-4-1

バス停「武蔵野住宅」下車

☎0422-51-1975 (管理・社会活動センター)

☎0422-51-1974 (在宅介護支援・補助器具センター)

☎0422-51-2933 (デイサービスセンター)

武蔵野市立北町高齢者センター

東京都武蔵野市吉祥寺北町4-1-16

☎0422-54-5300 バス停「北町四丁目」から徒歩三分
業務時間 8:30～17:15 (全て共通)

福祉公社ホームページ

URL <http://www.fukushikoshiya.jp/>